

龍の瞳

2000年に岐阜県下呂市萩原町の水田で発見された米の新品種「龍の瞳」の人気の高さが年々高まっている。発見したのは、当時農水省職員だった今井隆さん(55)。育種ではなく、偶然発見した米にもかかわらず、良質で独特の性質を持つため、奇跡的な発見とされている。ネーミングの由来は、稲作で欠かせない水の神様とされている龍から、そして米粒の大きさから、龍の大きな瞳も意識した。今年の干支は「辰」。ますます注目を集めそうだ。

誕生物語 岐阜・下呂市 資「龍の瞳」今井 隆代表



「自分の人生を変えた米」と今井さんは話す

鳥が種を落とした…理由は今も分からず

今井さんは、「ひだほまれ」の種が混じった可能性を考えたが、時、偶然、他と比べて背の高い稲を2株見つけた。高い稲を2株見つけた。今井さんは、「ひだほまれ」の種が混じった可能性を考えたが、「そんなはずはない」と思い直し、試しに1年間育ててみた。収穫して食べ、あまりのおいしさに驚いた。「炊飯器を開けると、部屋中に香ばしいにおいがたちこめ、釜の周りにはのりがつき、米粒がヒカヒカと光っていた。非常においしく、食べた時の感動は忘れられない」と今井さん。新品種であるとの確信を得た瞬間だった。

なぜ新品種が突然、コシヒカリの圃場に現れたのか。今井さんは不思議がった。「鳥が種を落としたのかもしれない。よくわからないが、検査の結果、コシヒカリの遺伝子は含まれていないことが分かった」。突然変異の可能性もあり、はっきりとした理由は現在も分かっていない。だが、「ハツシモ」や「朝日」系

「龍の瞳」という名称は、正確には品種名でなく、商標登録名だが、現在は、一般的にこの名前の方が広く知られている。

今井さんの家は兼業農家で、平日は東海農政局職員として働き、休日は農業に励んだ。龍の瞳を発見する前から稲の奥深さ、面白さにひかれ、気象と稲との相関性などを独自に研究していた。しかし、龍の瞳を発見した後は生活が一変。05年から本格栽培を始め、07年に農水省を退職した。現在は、合資会社・龍の瞳の代表を務め、普及に力を入れている。

突然、新品種が圃場に

食べると「あまりのおいしさ」

今井さんは、「ひだほまれ」の種が混じった可能性を考えたが、時、偶然、他と比べて背の高い稲を2株見つけた。

その後、03年に新品種登録の申請を行い、06年に新品種「いのちの恵」として登録が実現した。品種名は、「田は命の源」という思いが込められている。「龍の瞳」という名称は、正確には品種名でなく、商標登録名だが、現在は、一般的にこの名前の方が広く知られている。

下呂市発祥 奇跡の米

龍の瞳(左)はコシヒカリの1.5倍の重量があり、大きいのが特徴



は折り紙付きた。

龍の瞳の特徴は、その豊かな香りと甘みにある。品種が本来持つ特性のほかに、今井さんは「出穂から刈り取りまでの期間が42日ほどあり、旨み成分が蓄積しやすい」と、生育期間の長さを理由に挙げる。質龍の瞳では、販売した米に同封したアンケートを1400人から回収。味に満足し「非常においしい」82%、「まあまあおいしい」13%という結果を得た。一般の米に比べ2〜3倍の価格で販売しており、消費者の要求水準は当然上がるが、それを加味しても非常に高い評価を受けているといえる。さらに、06年〜09年の「全国米・食味分析鑑定コンクール」で金賞を、07年・08年・10年の「あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテスト」では最優秀賞を受賞しており、味の良さを

大粒、豊かな香り・甘み 生育期間長く旨み蓄積

粒の大きさも特徴で、玄米千粒重は30〜35%。コシヒカリの約1.5倍にもなる。味と同様、品種自体が持つ性質のほか、生育期間が他品種と比べ10日ほど長いことも影響している。落水の時期や栽植密度、標高によっても大きさは変わるといえる。分けつはコシヒカリに劣るが、穂の重さで収量をカバーする品種だ。アミノ酸含有量は15〜21%。食感も、コシヒカリ以上に粘りがある。このため、消費者からは「すくもモチモチしておいしい」と

栽培難易度は高い

病害虫や 施肥対策 生産者と留意点共有

龍の瞳は、栽培では農薬の使用量は7ポイント以下と、通常の3分の1に抑えている。化学肥料は全く投入せず、同社が指定した有機質肥料のみ使用する。

稈長は、コシヒカリよりも10〜15%長い。丈が長い分、倒伏が心配されるが、



栽培技術の確立と普及のため 圃場の見学・指導を行う

「ほかに芽の出る時期がそろわない特徴を持つなど、栽培が難しい品種」と話す。今井さんは「ほかに芽の出る時期がそろわない特徴を持つなど、栽培が難しい品種」と話す。

また、葉いもち病に強く、もみ殻が厚いため、カメムシにも強い。一方、導管が太いため心枯線虫(シンガレセンチュウ)が入り込みやすいという一面を持つほか、出穂から刈り取りまでの期間が長い分、穂いもち病にもかかりやすい。病害虫対策としては、木酢液と食酢の混合液、石灰を活用することでもち病に対応。クモなどの天敵昆虫も利用している。

施肥体系は、基肥と追肥を行う一般的な方法を採用。カルシウム資材とマグネシウム資材を土壌改良材

味の良さは折り紙付き

また、葉いもち病に強く、もみ殻が厚いため、カメムシにも強い。一方、導管が太いため心枯線虫(シンガレセンチュウ)が入り込みやすいという一面を持つほか、出穂から刈り取りまでの期間が長い分、穂いもち病にもかかりやすい。病害虫対策としては、木酢液と食酢の混合液、石灰を活用することでもち病に対応。クモなどの天敵昆虫も利用している。

また、葉いもち病に強く、もみ殻が厚いため、カメムシにも強い。一方、導管が太いため心枯線虫(シンガレセンチュウ)が入り込みやすいという一面を持つほか、出穂から刈り取りまでの期間が長い分、穂いもち病にもかかりやすい。病害虫対策としては、木酢液と食酢の混合液、石灰を活用することでもち病に対応。クモなどの天敵昆虫も利用している。